

幼稚園は教育に對して何を貢獻

し得るか

頌榮保育專攻學校 カサリン・アカナ

私達は近頃幼稚園をして義務教育の一部分たらしめんことを企圖に關して幾多の議論を耳にするのであります。若しも文部省がかような教育段階を決定するならば幼稚園は確かに尋常小學校一年生と密接に協力する時代に入らざらざらませう。若しもこの進歩的教育段階が採用せられざるならば、幼稚園教育の動向は如何なるものでせうか。恐らく幼稚園が自己持前の明確なる特質を失ふ程に小學校からの影響を受けるであらうし、さもなくば尋常小學校一年生は之に反對に幼稚園保育法に著しく影響せらるゝ所があるだらうと存じます。シャトルのある教育者の如きアメリカに於けるこれと同様な問題に就いて論じて居るのでありますが、即ちその趣意は小學校と幼稚園とは一國の小國民の精神身體及び靈性を教養をなす爲に各自の教育的努力が一層緊密になることが出来るだらうか云ふ事で御座います。私はこの一文に於きまして、小學校及び幼稚園兩者提携に對して幼稚園が寄與し得るだらうと考へらるゝ事柄に就いて少々述べて見度いと存じます。幼稚園では教育材料に應用せらるゝものとして『恩物』なる語を好むのでありますが、フレールは我々が遊具と稱するより以上の遙かに偉大なる感化を兒童の世界に貢獻したのであります。従つてこの幸福なる教育者團體が教育世界に對して貢獻した二三のものは何かについて考へて見度いと存じます。

第一の貢獻云ふのは『子供の園』なる名稱を與へたことでありまして、これは花を咲かすべき幼なき蕾がある所であり

まして、児童心理學者の意識の中に土壤の大切なことを喚起致したことで、換言しますならば、子供が成長する外部的環境や幼なき成長せんごする植物の根や枝を養ふ土壤を持分致して居ることで御座います。

第二の貢獻は、教育なる概念が假令成長の波には時によつて高低があるにせよ、繼續的過程としての教育觀念を與へたことであります。

第三に幼稚園は教育世界の中にあつて成長の方法として自己活動なる觀念を育成して來たので、その點より致しまして兒童に云ふ觀念は決してその上に文字を書き得べき蠟板の如きものではなくして、自己の運命の大部分を創造する生きて成長しつゝある有機體であるに云ふ觀念で御座います。

第四に、幼稚園が教育に對して與へた今一つの貢獻は教育過程に日光及び空氣を持込んだことで、人間の成長が、人間以外の他の自然物の成長の様態と同じく入念に耕された土壤に依存するのみでなく、多量の日光や成長して行く植物の世話をする愛する園丁に依頼せねばならぬに云ふ觀念の使ひ方を取入れたことあります。

以上述べましたこれら事柄について一の興味あることは、斯様な事柄が幼稚園に由りて發見せられたものでなかつた事で御座います。幼稚園以外の人々が既に斯様な事柄を持出して居りました。然るに之を適用して、『子供の園』まで稱せらるゝ程に教育體系の中に入れたのは即ちフリードリツヒ、フレーベル其の人でありました。何故か云ふに『子供の庭』は兒童達の中に新生命の種子を植え、その種子より生え出づる植物を養ひ、花蕾を妨げる雜草を刈取り、一般に植物をして充分なる美し實を結ばしむるからで御座います。

更に自然過程として兒童の發育に興味を有する故に、幼稚園は常に多くの子供達の中にも尙個性的特質を育成することに非常に重點を置いて來たのであります。然るに幼稚園教師は自己の職責に關するこの大原則を見失つて、謂はゞ小さい植物を並べて、各々の子供に千篇一律に同じ知的食物を與へ、各々の子供が同じ色形を具へた果實を花を要求す

る云ふが如き、形式主義の中へ自身を陥れて居る様な時代でありました。

然るに近年に到つて幼稚園世界は斯る形式主義の連鎖を破壊致しまして、子供達各自の個性研究の心理學の學究に、而して心理學的成長の法則を個人の場合に應用する様にすべての教育者達を指導して來たのであります。この指導が教育過程のすべての段階に對して寄與せる恩恵が眞にすばらしいものであつたことはすべての諸學校は勿論大學までその追求する幾多の教育觀念に於ける開拓者になつたことであります。従つてこれら二三の恩恵及び教育時期に於ける各段階の相互關係を一括して述べて見やうと思ふので御座います。

(イ)發達は繼續的過程であり、従つて其自體、向上せんとする衝動の種子を有するものであるこの觀念であります。されば各自の能力によつて自己の思考生活を活動せしむべき機會が賦與せられ、且つ被教育者が發達の個人的段階に於いて考慮せらるゝ云ふことは各自の神聖なる權利であります。

(ロ)自己活動が成長の法則であり、且つ被教育者は學習過程に於いて自己の意志を動かす場合のみ自らは何事をも成就し得る云ふ觀念であります。この様な觀念は工業學校にて従事せらるゝが如き實際的研究にのみ應用せらるゝのみならず、高等諸學校に於いて經濟學哲學の諸問題の如き推究を必要とする思想に關する獨創力にも應用せらるゝのであります。今日も尙大體に於いて舊式なる講義制度を墨守する大學に於いてすらも、知名の教授が教室の前方を遠く見ながら、自己活動的創造的思索の中に自己の知識を取扱ながら、従つて社會に關する斯る結果の方面を觀察する如き習慣を彼等の學生達に形成せんことを意圖するのであります。従つて小學校より大學に到る迄すべての學校に於いて私達の小國民に與へらるゝ訓練、例へば健康を與へんとするあらゆる體育運動、被教育者の中に表示せらるゝ愛より出づるすべての關心事が、他日圓滿なる成人として我が日本の社會に於いて彼等をして各自の立場に立たしむべき準備を目的とするものであるこの觀念の上に、益々重點が置かれる様になつて居るのであります。従つて彼等が他日圓滿なる成人になつた曉には、自己の

強壯なる身體、理知に富める精神及び自己の國家に對する尊嚴なる愛國心等を、個人の場合と同様に、偉大なる貢獻を各自がなし得る方法に由りて如何様に取扱ふべきかを知らるに到るのであります。

さて教育世界は年を経るにつれて、一人の教育者の他の者より學んだものを進歩させるものであつて、最後に天才が生れて、種々雑多の源泉より人の注意を惹く實際的系統を組織だてるに到つたのであります。ペスタロッチは學校は愛が経験せられる場所であるを思想に對して責任を感じた人であります。私達は幾多の事柄の故に、往時兒童が處罰せられたかを読む時に愛の觀念が如何に大變化を及ぼすものかを理解するのであります。フレーベルは嘗てペスタロッチに就いて學び、學校愛によりて彼と彼の子供の庭に關與するようになったのであります。斯る理想を抱いて幼稚園は教育世界の全範圍に互つて影響を與へたけれども、教育が繼續的なものであることを發見するに到らなかつたのであります。プラトンはソクラテスの口を藉りて既に大昔に之を語つて居ります。然乍ら幼稚園は自身が證據立てられなかつた爲に、その原理の有効性を證據立てんとして永年の訓練をして今日に到つたのであります。

人間の意識の背景にある大なる觀念は、例を以て云へば人生スペシヤリゼーションと云ふ海岸に向つて特殊化スペシヤリゼーションと云ふ繼續的に寄せる來る波浪となつて大洋がその人生の海岸を洗ふに類似して居ります。斯る波浪が全體的に繼續するのは、夢の如くに慣習と云ふある斷崖の底部を徐々に破壊して行くのであります。然し遂に最後の大波浪が來りて之を覆没して仕舞ふのであります。『私達は幼稚園の來るべき次の百年の爲に謙遜なる精神を以て將來を展望したいもので御座います。又私達は變化の思想を保證し得ない完全と云ふ様なことを決して誇つてはならないと思ふので御座います。私達はフレーベルの子供の庭の生きて成長しつゝある精神に自己を獻げることに由りて最高の榮譽をフレーベルに歸すべきことを忘れてはならないと存じます。私達は幼稚園の外形的形式ではなくして寧ろその精神が教育體系の全體に對して、從來よりも更に一層高遠なる方法によつてこれらの賜物を取扱ふ爲に特殊の貢獻を致し度いもので御座います。』